

ケアポート板橋 吉田宗平(東坂下デイ/管理者)

功 績 子供食堂支援事業である「こども食堂」の運営における中心人物であり、毎月平均20名の参加者を定着させることに成功する。また、東京家政大学の学生さんが4人でローテーションを組み、毎回2名の定着したボランティアをしてくれる仕組みを構築した。更にこの取り組みをきっかけに、東京家政大よりケアポート板橋栄養課へ、今年4月より新卒入職1名獲得することができた功績。

推 薦 者 平田敏理(東坂下事業所 所長)

推 薦 理 由 地域との関わりが希薄になってきているこの時代において、東坂下事業所が地域コミュニティを構築する一助となったこの事例はまさに「地域共生の街づくり」の理想的な形であると考えます。また、地域と施設と学生を結び、新卒採用に繋げたこの事例は理事長賞に値すると思ひ、推薦させていただきます。

内 容

東坂下デイ管理者である吉田は、今年度の理念実現、1年後の姿にも掲げている「地域一体型の街づくり」において、こども食堂の立ち上げを中心として担ってくれている職員です。1年半前、先駆的に事業を始めている板橋区蓮沼町にあるM院へ見学同行し、そのノウハウを基に東坂下事業所で開始致しました。

開始当初は地域からの参加はなく、職員の子供の参加がメインであり、どの様に地域を巻き込めば良いのか、暗中模索の状況でした。そこで吉田は、地域の子供連れのお母さんたちへ、自作のポスター配りを開始。参加される地域の方々は回数を追う毎に増加していきました。東坂下事業所開設から行っているバザールにおいても積極的に「こども食堂」をアピールし、今ではデイルームに入りきれない程の参加を頂くまでになりました。

同時にケアポート板橋において実習生を受けている東京家政大の教授へ、取り組みの説明とボランティアの提案を実施。快く受け入れて下さり、今では4名の学生ボランティアが自らローテーションを組み、毎回2名の学生が献立決めや買い物を担ってくれるにまでに仕組みが出来上がりました。

更にこのボランティアがきっかけとなり、来年度の新卒職員として栄養課に1名の栄養士の入職が決まっております。